ケニア稲作地帯を巡って　水上優子　愛知県農業総合試験場　山間農業研究所　主任研究員

2011年11月20日から27日まで、ケニア中央部と西部の灌漑地帯の稲作調査の機会をいただきました。小雨季のためか天候に恵まれ、大学や試験場を訪問しつつ、水田地帯を回りいもち病菌の収集と病態調査を始めました。灌漑公社の指導により水田管理は想像より丁寧でしたが、耕起以外の作業はほとんど人力で賄われ、畔草を食べる牛や山羊の群れに、かつての日本の稲作が想われました。今回の調査地域ではいもち病の発生が少なく、菌の収集数は限られました。これは気候条件にもよりますが、普及品種の中でいもち病に強い品種の栽培が増え始めていることも一因でしょう。普及が広まり占有化すれば抵抗性の崩壊が起きる可能性も高くなります。習慣の違いもあり、日本の技術をそのまま用いることは困難かもしれませんが、抵抗性遺伝子の種類を増やす育種支援の重要さを感じました。ケニア灌漑地帯の生産性の豊かさを見、気さくな農家の人々に会って、想像と知識でしかなかったアフリカ農業を実感できたことに感謝いたします。

外国人客員研究員

カンボジアにおけるイネ主要病害虫の同定ならびにその防除技術開発に関する研究

ハイン・ティーダ

カンボジア王立農業大学作物栽培学部副学部長
外国人客員研究員（任期：2011年8月1日～9月30日）

カンボジアの主要農作物である米は、１ヘクタール当たりの平均収量が２～３トンと生産性が低く、農村部住民の貧困の一要因にもなっています。しかし、米の生産性に影響を与える病害虫に関する研究は殆ど行われていません。そこで、近年カンボジアの稲作に多大な被害を与えているといわれるトビイロウンカの実態とその影響について、ICCAEや生命農学研究科の教員や学生とともに共同研究を始めました。研究はまだ始まったばかりですが、トビイロウンカを採取・分析する方法を見いだし、カンボジアで実施する実験の計画と準備が整いました。滞在期間中、実験指導をしてくださった田中利治教授をはじめとする多くの生命農学研究科の先生方、またICCAEの教員の皆さまに感謝いたします。

略歴　1967年カンボジア生まれ。1992年カンボジア王立農業大学作物栽培学部を卒業し、1993年より同大学の実験助手を務めた後、1999年より現職。2004年同大学大学院農業科学専攻修士課程を修了。

オープンセミナー（2011年6月～2011年11月）

回　数	日　時	テーマ	講　師	所　属
2011年度 第３回	6月29日	開発コンサルティング業務とは ～開発途上国最前線からの報告～ 講演1：国際協力における開発コンサルタントの役割 講演2：ザンビア国「小規模灌漑」開発調査におけるコンサルタントの取り組み	講演1：高梨　寿 講演2：蛭田 英明	社団法人海外コンサルティング企業協会 専務理事 株式会社三祐コンサルタンツ 海外事業本部 技術第3部
第４回	9月５日	世界の食料問題と日本農業のポジション	生源寺眞一	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
第５回	9月21日	講演1：ケニアにおけるイネいもち病対策：いもち病抵抗性品種の育成と生物防除に関する共同研究 講演2：カンボジアにおけるトビイロウンカの発生状況の把握と防除技術の開発に向けて	講演1：キャサリン・マチュンゴ 講演2：ハイン・ティーダ	国立灌漑公社アヘロ灌漑研究ステーション 研究・灌漑官（ケニア）/ ICCAE客員研究員 王立農業大学作物栽培学部　副学部長 （カンボジア）/ ICCAE客員研究員
第６回	11月11日	アジア天水田における変動土壌水分ストレス条件下でのイネ生産に対する根の可塑性の機能的役割	ロエル・スラルタ	フィリピンイネ研究所　農学・土壌・ 植物生理学部門　科学研究専門官